

(様式) 府立松原高等学校 「学校運営協議会」 報告書 (第2回)

日 時	令和1年11月16日 (土) 14:00~16:00			
出席者	運営協議会委員	職名等	学校事務局	校務分掌等
	房 本 晃	社会福祉法人 バオバブ福祉会理事	平 野 智 之	校長
	菊 地 栄 治	早稲田大学教授	藤 原 和 子	教頭
	松 岡 日出雄	松原市立松原第三中学校長	木 村 悠	首席
	孫 智子	本校PTA会長	伊 藤 あ ゆ	首席
			山 口 裕 子	人権教育主担
			中 川 泰 輔	人権教育主担
	教職員等			
	林 茂 樹 (摂南大学) 南岡 靖之 (1学年代表) 宮崎 舞 (1学年人担) 武藤 利佳 (1学年) 谷口 彩 (1学年) 岡本 虹穂 (1学年) 林 知彦 (2学年代表) 亀田 恵美 (2学年人担) 西尾 奈菜 (2学年) 岩崎 江津子 (3学年代表) 眞杉 凌 (3学年人担) 宮城 歩実 (3学年) 坂東 修平 (3学年)			
おもな テーマ	今年度の重点項目の進捗について 運営協議会委員からの感想・提言			
協議内容 の概略	①深い学びプロジェクト 2 nd シーズンについて ・PJ では学び方や学ぶ意味そのものを授業で学ぶことを中心にすすめる。生徒「が」動く授業がコンセプト。特に、ねらいについては生徒の実態に合わせた問いを立てること。(中川教諭) ・公開授業より、テーマと成果・課題の報告 (岡本教諭、西尾教諭) 周りの人と生きていくとは、自分にとってどういうこと? (坂東教諭) 自分の好きな選択科目について英語で説明できる。(岡本教諭) 日常生活に根差した問いに、根拠を持って答え、伝えられる (西尾教諭) ②深い学びプロジェクト カリキュラム マネジメントについて ・コア、セミコアのチーム編成で授業改善と両輪で実施していく。必修科目の枠組みについて、1年時の選択科目を引き続き実施するかがポイント。(木村首席) ③協議委員からのご意見、提言			
提 言 内 容・改善 方策	・1年時の選択科目は残して。中学生は合格後から、選択科目の面談にワクワクしていた。そういった看板を外して、何を焦点化するのか。また、現在まで多様なスタッフで、生徒の意欲や関心を引き出せている。1年時の選択科目を外すことは後退につながる。 ・主体的、対話的、深い学びとは。生産指向のキーワードでもあるが、生徒の実態が見えないままの主体とは何か。描く社会のイメージをカリキュラムでどう打ち出すか。 ・総合学科であるからこそ、「せいと“が”動く」を打ち出せるような先生の授業が受けられる。1年生で選択するということは子どもにとって難しい。だからこそ、考えたり人に聞いたりできる。自分で学ぶという力をつけるためにはミスチョイスの苦悩も経験の一つになる。 ・大学のカリキュラムも迷走している。一般教養の科目を少なくしたり、戻したり。 ・授業の設計は、必ずしも工学的でなくて良いのでは。もっと、行きつ戻りつしても OK。			